

## 学会ニュースNo.97 トピックス

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| ・秋季例会および講演会・臨地研究会会告     | ・評議委員会・総会報告 |
| ・第64回研究発表大会報告           | ・研究委員会の設置   |
| ・2009年度「彩の国環境地図作品展」のご案内 | ・会費納入のお願い   |

## 会 告

### ○2009年度第33回秋季例会・第106回臨地研究会のご案内(第2報)

第33回立正地理学会秋季例会と第38回講演会ならびに第106回臨地研究会(秋田地理学会共催)を下記の日程で開催します。今回は、秋田大学の鉱業博物館見学や八郎潟巡検と盛り沢山の内容です。多数の会員のご参加をお待ちしています。なお、第1報の案内とは秋季例会会場等が変更になっておりますのでご注意ください。

### 秋季例会(秋田)・講演会(第38回)のご案内

1. 日 時:2009年11月 7日(土)13:30~16:40

#### 第38回 講演会

秋田県資源産業課:日本をリードする秋田の環境リサイクル

—秋田県内の環境リサイクルの取り組みについて—

#### 研究発表(15:40~16:40)

栗山 知士(男鹿工業高):男鹿半島、脇本城跡の立地に関する地形

岩谷 宣行(秋田明德館高):レンタカー企業の立地展開からみる秋田県の地域構造

河野 忠・藪崎 志穂・原 美登里(立正大)・鈴木 康久(水文化研究家):

名所図会を用いた古水環境の復元

2. 会 場:秋田大学教育文化学部 3号館 342 教室

〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1

3. 懇親会(18:30~20:30) 会場へはバスで移動

会場は、サンルーラル大潟(<http://www.sunrural-ogata.com/>)

〒010-0441 秋田県南秋田郡大潟村北 1-3 TEL 0185-45-3311 FAX 0185-45-3320

懇親会費:一般会員 5,000 円 学生会員 3,000 円(事前申し込み必要)

4. 宿泊について

‘サンルーラル大潟’に 20 部屋確保(1泊朝食付き 7,140 円)しています。宿泊希望者は 10月31日(土)までに、岩谷宣行会員に直接ご連絡ください。

岩谷宣行会員 連絡先

E-mail([fels-tal@kb4.so-net.ne.jp](mailto:fels-tal@kb4.so-net.ne.jp))

携帯電話(090-8317-9702)

〔講演会・例会会場への交通〕

- ・鉄道利用の場合  
秋田駅東口より徒歩 15～20 分(1.3 km)
- ・バス利用の場合  
秋田駅西口 4 番のりばから「手形山  
経由大学病院」行きに乗車し「秋田  
大学前」下車(所要6分)。180 円  
毎時 5 分・35 分発のバスがあります。
- ・自家用車利用の場合  
秋田中央インターから 15 分  
大学構内に駐車場(無料)があります。  
正門からお入りください。

秋田大学構内図(秋田大学HPより)



※現地担当者は、上村康之(ノースアジア大)会員と岩谷宣行(秋田明德館高)会員です。

臨地研究会(秋田地理学会共催)のご案内

1. 日時:2009年11月8日(日) 8:00～14:40  
集合場所:‘秋田駅東口’(サンルーラル大湯から参加する場合は、8時30分発)
2. 案内者:上村 康之(ノースアジア大)・後藤 忠志(秋田看護福祉大)・  
岩谷 宣行(秋田明德館高)
3. テーマ:八郎潟干拓地ならびに周辺地域における自然環境と住民生活
4. コース:大湯富士→北緯 40 度・東経 140 度交点→大湯村干拓博物館→滝の頭湧水  
→寒風山(天王砂丘展望)→八郎潟防潮水門→地先干拓地→秋田駅
5. 参加費:1,500 円(昼食代含む)
6. 募集定員:20 名  
事前申込が必要で、定員に達し次第締め切らせていただきます(詳細は下記)。  
臨地研究会には国際教養大学所有のバスを使用します。

〔懇親会・臨地研究会の申し込み〕

懇親会および臨地研究会に参加を希望する会員は、ハガキもしくは電子メールで氏名・所属を明記し、立正地理学会 集会委員会宛てに、ご連絡ください。締切日は 11 月 4 日(水)とします。

## ○2009年度立正地理学会評議委員会報告

2009年6月5日(金)18:00より立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ6階会議室において、出席者12名、委任状提出者13名、計25名にて開催された。議事では、まず2008年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に2008年度決算報告が山田会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2009年度事業計画案・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。(集会委員会)

## ○2009年度(第64回)立正地理学会総会報告

2009年6月6日(土)11:40より立正大学熊谷校舎アカデミックキューブA301教室において、出席者73名、委任状提出者127名、計200名にて開催された。正議長に小室信幸会員、副議長に上江洲薫会員を選出し、議事に入った。議事では、まず2008年度事業報告・決算報告・会計監査報告がそれぞれ島津常任委員長、山田会計委員長、松井会計監査からなされた。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2009年度事業計画案・予算案、立正地理学会役員・各種委員会委員案が提出され、会員から質疑があり、審議後、いずれの事項も承認された。(集会委員会)

## ○2009年度(第64回)立正地理学会研究発表大会報告

学会ニュースの紙面充実を図るため、広報委員として学部生と社会人を増員しました。多くの会員みなさんに研究発表大会などに参加していただけるよう、取材活動などを行い、学部生の視点による取材レポートを掲載していきます。

あたたかい目で見守っていただければと存じます。

### 1. 2009年度 研究発表大会の概要

日時:2009年6月6日(土) 総会・研究発表 9:40~17:20 懇親会 17:30~19:00

会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ3階

大会参加人数:およそ130名

2009年度の総会・研究発表大会は、大塚会長による講演をはじめ、立正大学地理学科の先生方はもちろんのこと、他大学の先生方や大学院生の方々による11件の口頭発表<sup>\*1</sup>、先生方や先輩方のポスター発表<sup>\*2</sup>13件と地理写真7件の発表が行われました。

立正大学地理学科の教授として長年教鞭をとられてきた大塚会長により「沼津・三島地域の地域論」についての講演が行われました。内容は次の通りです。沼津・三島地域は「静岡県東部の中心であり、かつ伊豆観光の一拠点であり、さらに富水性地域である」という3つの視点から、様々な地理的事象を捉え、これらは単独で起こるのではなく、相互に関係を持っているという内容でした。例えば富水性地域には湧水があり、それらを生かした白滝公園や養魚池などができることによって観光的利用がされるというもので、とても勉強になりました。奥鬼怒や浜松、濟州島、金沢など様々な地域を対象に研究をなさってきた大塚先生ですが、御退職を間近に控えた近年はご自身が幼少期を過ごされた沼津・三島地域や、山口県萩市などを対象に『地域論』という考え方を主軸にして、地域を明らかにしようと試み

ているそうです。今回の講演では、これらの地域の具体的な事象を交えながら、地域をどう扱い、考えて行くべきか、というお話をして下さいました。

口頭発表では谷口智雅(立正大・非)・戸田真夏(青山学院大・非)・谷地 隆(敬愛大学環境情報研究所)の「ネパールランタン地域における河川水質」についての発表にとても興味を持ちました。先生方は、ネパールランタン地域の 74 地点において、水温・電気伝導度・パックテストによる水質測定と試験紙による大腸菌の観測をされたそうです。その結果から、流域の人口が多いところでは、家畜や人間活動の影響によって電気伝導度が高くなることなどを発表されました。私は水質等に関心があるので、とても興味ある内容でした。

私は1年生時には研究発表大会に参加しなかったのですが、今回、口頭発表をしっかりと聞いたのは初めてでした。他の大学の先生や大学院生の方々、先輩方の発表を聞けるという貴重な体験ができました。また、発表者をはじめ、発表を聞いている先生方や学生たちも、緊張感のある雰囲気の中で口頭発表が行われました。そのため、みんなが真剣で、より深く話を聞くことができました。

ポスター発表では4年生の米津達哉先輩、栗原花菜里先輩による「豊後高田市・別府市周辺・由布市における水環境」についての発表を聞いて、湧水に興味を持ち、2年生のフィールドワークでは水質について調べることにしました。

研究発表大会全体の感想として、発表を聞きに来る学生が少ないという印象を受けました。1発表 20 分という短い時間で、先生方の研究内容を多く聞くことができるのはこの大会の時だけだと思います。いろいろなことが自分の糧になりました。

発表がすべて終了すると、懇親会が行われます。懇親会には多くの先生方や大学院生・学生が出席するので、普段なかなかお話しする機会のない先生方ともお話しすることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

学生のみなさん、そして会員のみなさん、ぜひ一度参加してみてください。とても有意義な時間が過ごせること間違いありません。  
(広報委員 菊地郁恵)

#### \* 1 ポスター発表について

ポスターは文章や図表、カラー写真などにより作成されています(写真1)。それらが口頭発表とは異なり、一日中パネルに貼り付けてあるため、内容を何度も繰り返し読むことができます。また、カラー写真や図なども多く載っているため、2年生の私でも「どの様に調べたのか」、「どの様な結果が出たのか」など、とてもわかりやすかったです。また、自分でレポートを書くときの文の構成[起承転結]などを学ぶことができます。(広報委員 浅賀加奈子)

#### \* 2 口頭発表について

口頭発表は決められた時間内でそれぞれの研究・調査について、発表を行うものです(写真2)。発表時間は20分で、短い時間の中で、簡潔にまとめられた発表を聞くことができました。また、先生方のギャグも聞けました。さらに、発表が終わった後、その場で発表者に質問をすることができます。そのため、他の人が質問することで自分では分からなかったことや気付かなかったことなどが分かり、さまざまな視点からの考え方や見方を学ぶことができました。

先生方・大学院生の方の発表を見聞きすることによって、決められた時間内での発表の仕方やプレゼンテーションなどについても学ぶことができ、自分が発表する時にとっても役立つと感じました。  
(広報委員 浅賀加奈子)



写真1 ポスター発表(須田恵里香会員撮影)

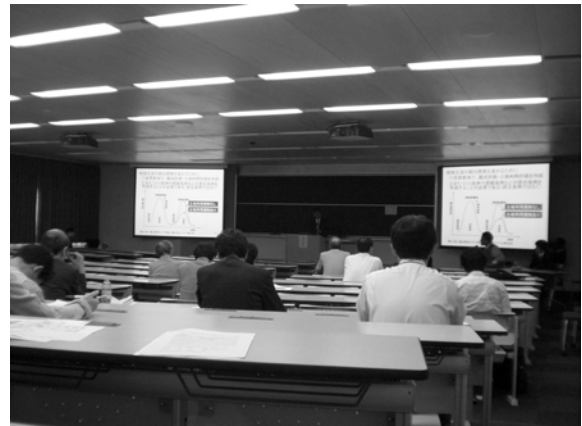


写真2 口頭発表(浅賀加奈子会員撮影)

## 2. 2009年度発表大会に参加して

地理学科2年 成田康彦君

上江州薫先生の口頭発表(都市計画区域における観光開発の展開と規制要網の制定-沖縄県本部町・読谷村を事例に-)を聞きに来ました。

私は、建物を建てた後に生じる問題について興味がありました。また、観光開発と都市計画との関係にも関心がありました。そうした内容を聞くことができ、とても勉強になりました。また、早急に開発規制を行うためには時間を要する条例ではなく、指導要領などを作成するなどの具体例なども参考になりました。

地理学科1年 中橋瑠輝君 田部井敬太君

基礎地図学の自由課題のためにポスター発表を見に来ました。ポスターの内容は、文章だけでなくグラフや写真等が多く、内容を理解しやすく、それぞれの発表の主旨がすぐわかりました。グラフや写真などにより研究結果をわかりやすく、見やすくまとめられており、とても勉強になりました。

地理学科 OB 木元 弘さん(朝日航洋株式会社 空間情報事業本部)

校友会に出席するので訪れたところ、立正地理学会研究発表大会が行われている事を知り、立ち寄ってみました。すると、恩師である新井正先生や学友の小室信幸氏などの発表があり、数十年ぶりに参加してみました。その後、学会にも再入会しました。

学生の皆さんへのアドバイスとしては、在学中に色々な経験をしてもらいたい。たとえば学会の手伝いや、学会に参加する事も良いことです。そして、測量士や GIS 学術士などの資格を取る事も将来の可能性が広がる一つですので、ぜひチャレンジしてください。

地理学科 OB 小室信幸先生(立正大学・非)

研究発表を終えられた小室先生に、研究のきっかけと苦労されたところをお伺いしました。きっかけについては、家を新しくした事、藤沢市のエコパートナーに参加して太陽光発電について調べた事、そのグループに太陽光発電を付けている方がおり、話を聞くことができた事を挙げておられました。そして、苦労されたところとして、データを取る際に自動記録がないので月に一度家で確認をしなければならない事とおっしゃっていました。

また、学生に向けてのメッセージをお伺いしたところ、学生時代に、先輩に色々な事を聞く事が出来た経験をもとに、学年を越えた仲間関係は大切であると話して下さいました。

## ○第105回臨地研究会報告

2009年6月7日(日) 9:30～16:30 案内者:松尾 宏(利根川歴史研究会・(株)日水コン)、戸田真夏(青山学院大・非)、谷口智雅(立正大・非). テーマ:今に残る利根川(荒川)洪水の痕跡～古堤防(中条堤)と水塚. コース:立正大学→熊谷駅南口→上中条堤→北河原堤→赤岩渡し→日向の水塚・上げ舟→熊谷駅→立正大学. 参加者:24名



臨地研究会の様子(須江会員撮影)

(集会委員会)

## ○研究委員会の設置 —委員募集のご案内—

研究委員会募集の結果、下記の2件の応募がありましたことをご報告いたします。

### ①「高地における地理環境」研究委員会 (新規)

1. 世話人 : 戸田真夏会員(代表)
2. 趣旨 : 高地では自然環境が厳しいため人間の活動は大いに制限を受ける。その結果、地域性が強く反映した生活が営まれてきたが、近代化の流れの中でその地域性は失われつつある。そこで本研究では、厳しい環境下での地域性が現在でも色濃く残る発展途上国の高地において自然環境と人間活動を総合的に調査することで、人々の叡智を集めた生活がいかに育まれてきたか明らかにすることを目的とする。研究地域として、研究代表者および研究委員会の参加予定者が訪問および調査実績のあるネパール山岳地域を対象とする。
3. 主な活動内容:
  - ①立正地理学会研究発表大会でのポスター発表・地理写真の展示
  - ②高地地域を対象とした巡検の実施
  - ③高地における自然環境条件に基づく人間活動の関わりについて明らかにする
4. 研究委員会設置期間 : 2009年4月～2011年3月
5. 参加申込 : 委員会名を記載し、氏名・所属・連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記して、立正地理学会まで葉書もしくはメール(geosoc@ris.ac.jp)にてお申し込み下さい。
6. 申込期限 : 原則として2009年11月30日

## ②「熊谷地域」研究委員会（新規）

1. 世話人 : 高木 亨(代表)
2. 趣旨 : 熊谷の小麦は 50 年にわたり埼玉県内で生産高第一位を誇り、全国でも有数の小麦の産地として知られている。その背景には、「麦王」と呼ばれ今日の日本の小麦生産を築き上げた熊谷市出身の権田愛三の存在は大きい。また、熊谷には小麦を使った「手打ちうどん」、「フライ」、「すいとん」、「炭酸まんじゅう」などの伝統食が多く存在する。また、熊谷市内には手打ちうどんやフライを扱った商店が多く存在している。しかしながら、行政や商店の PR 不足から熊谷市外や埼玉県外での認知度はまだまだ低く、熊谷市民でさえ知られていないのではないかと考えられる。今回、聞き取り調査などを行い熊谷小麦や粉モノ文化の認知度や意識を調査し、これらの実態を明らかにすることを目的とする。また、さらに視野を広げるためにも熊谷小麦の流通先や熊谷小麦を扱っている商店の実態調査も合わせて行う。
3. 主な活動内容:
  - ①立正地理学会研究発表大会でのポスター発表・地理写真の展示
  - ②熊谷粉モノマップの作成
4. 研究委員会設置期間 : 2009 年 10 月～2011 年 3 月
5. 参加申込 : 委員会名を記載し、氏名・所属・連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記して、立正地理学会まで葉書もしくはメール(geosoc@ris.ac.jp)にてお申し込み下さい。
6. 申込期限 : 原則として 2009 年 11 月 30 日

(副常任委員長 長坂政信)

## ○2009年度「彩の国環境地図作品展」のご案内

立正大学地球環境科学部では、2002年度より「彩の国環境地図作品展」を開催しております。「彩の国環境地図作品展」は、身の回りの環境や地域の姿の観察・調査をおこない、地図として表現することにより、環境や地域に対する見方・考え方、地図の持つ可能性に対して、理解を深めることを目的としております。埼玉県内の小学校、中学校、高等学校特殊教育諸学校に在籍する児童生徒を対象として、作品を募集しております。

作品の展示会、ならびに入賞作品の発表会・表彰式を下記の日程で開催いたします。ぜひ、お出かけ下さい。

### 《発表会・表彰式》

2009年12月5日(土) 立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ

### 《作品展示》

2009年11月13日(金)～23日(月)	埼玉県環境科学国際センター (JR鴻巣駅・加須駅よりバス)
2009年12月 2日(水)～ 5日(土)	立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ
2009年12月 8日(火)～17日(木)	所沢航空記念公園 管理事務所 (西武新宿線 航空公園駅より徒歩すぐ)
2010年 2月27日(土)～ 3月 7日(日)	埼玉県立川の博物館 (東武東上線鉢形駅より徒歩20分)

入賞作品は、国土地理院「全国児童生徒地図優秀作品展」(2010年1月10日～2月21日)に出展されます。また、入賞作品・優秀作品は「彩の国環境地図作品展ホームページ」でも閲覧できます。

「彩の国環境地図作品展」ホームページ (<http://www.ris.ac.jp/ecomap/>)

鈴木厚志・原美登里(立正大学)・亀井啓一郎(立正大学・非)

## ○会費納入のお願い

今回の学会ニュース 97 号には「会費納入状況のお知らせ」を同封しております。2009年度分会費が未納の方は、同封致しました払込取扱票にてご納入下さい。なお、過年度分会費が未納の方は、過年度分も併せてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円  
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名を会員ご本人の氏名として頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、払込取扱票の払込人住所氏名の欄が未記入の物が見受けられます。とくに、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない払込取扱票の対応に苦慮しております。何卒、ご入金の際には氏名欄のご確認をお願いいたします。(庶務会計委員会)

### 編集後記

広報委員として学会ニュース作成に参加をさせていただく事になりました。至らない点もあるかと存じますが、よりよいニュースをお伝えできるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。  
(広報委員会 須田恵里香)

## 立正地理学会ニュース No. 97

2009年 10月 20日発行 編集者 立正地理学会 広報委員会  
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内  
電話 048-539-1660 振替 00130-8-13453